

# JR南武線連続立体交差事業 の取組について

第6回川崎郷土・市民劇 も楽しめる。

川崎市議会議員 末永直

「南武線誕生物語」夢見る「男たち」を去る5月19日、エポックなかはらで観た。秋元喜四郎、浅野総一郎両氏をはじめ、大勢の方が南武線を夢描いていた。夢なくして実現なし、である。

さて、中原区内で地域活動をしていると、何人もの方から「南武線の立体交差事業はどうなっているのか？」と尋ねられる。

改正の趣旨を踏まえ、地域の皆様への丁寧な説明により理解を深めながら、計画策定に向けて、取り組んで参りたい」との答弁を得た。今後の動きだが、現時点では平成30年度をメドに都市計画決定をする予定であり、環境アセスメント等を実施し、事業認可を受け、その後、約5年位をかけて用地買収、10～15年かけて工事を行う、との見通しだ。大きな検討事項として、「構造工法」の問題がある。現在の選択肢として、①仮線高架（買収した用地に電車を走らせ、新設高架橋を建設）②仮線高架十直上高架（現在の電車を走らせな

「JR南武線立体交差化PRオープンハウス」説明会が先日、中原区役所や市民館で開催された。パネルやジオラマ展示、踏切非常ボタン装置の体験等がイベント内容で、お子様方に

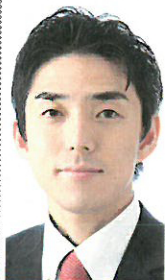
設緑政局長に質問し、「法

改正の趣旨を踏まえ、地域の皆様への丁寧な説明により理解を深めながら、計画策定に向けて、取り組んで参りたい」との答弁を得た。今後の動きだが、現時点では平成30年度をメドに都市計画決定をする予定であり、環境アセスメント等を実施し、事業認可を受け、その後、約5年位をかけて用地買収、10～15年かけて工事を行う、との見通しだ。大きな検討事項として、「構造工法」の問題がある。現在の選択肢として、①仮線高架（買収した用地に電車を走らせ、新設高架橋を建設）②仮線高架十直上高架（現在の電車を走らせな

まで実施する義務が課されたことを踏まえ、私は「開かずの踏切」の対策や立体化の計画策定に向けた今後の取組や進め方について建

設緑政局長に質問し、「法

改正の趣旨を踏まえ、地域の皆様への丁寧な説明により理解を深めながら、計画策定に向けて、取り組んで参りたい」との答弁を得た。今後の動きだが、現時点では平成30年度をメドに都市計画決定をする予定であり、環境アセスメント等を実施し、事業認可を受け、その後、約5年位をかけて用地買収、10～15年かけて工事を行う、との見通しだ。大きな検討事項として、「構造工法」の問題がある。現在の選択肢として、①仮線高架（買収した用地に電車を走らせ、新設高架橋を建設）②仮線高架十直上高架（現在の電車を走らせな



末永直 プロフィール

- 国立佐賀大学大学院 教育研究科卒業
- 自民党参議院議員元秘書
- 昭和58年5月27日 34歳
- 総務活動事務所 〒211-0034 中原区井田中ノ町42-10
- 問合せ先 ☎044-789-5823

が真上に新設高架橋を建設）③地下（開削シールド）の3つが候補として挙げられており、概算事業費として①は約1185億円。②は①の約1・1倍、③は①の約1・7倍もかかるとのことだ。今のところ、①仮高架が「武蔵小杉駅」尻手駅間の13踏切が除去可能かつ経済性、環境面、計画的条件、地理的条件、地形的条件から総合的に優位」とのこと。地域住民の方々と協議しながら本取組を積極的に進めてもらいたい。子供の頃に流行った「悪の十字架」という怪談話があるが、武蔵小杉駅「尻手駅間の踏切は「開くの十時か!？」とツッコミを入れざるを得ない。怪談は笑えるが、「開かずの踏切」問題は全く笑えない。人身事故等を考えると、むしろ怖し。